

風土記の丘の花だより²⁶¹

今、そしてこれから見られる植物(2024年11月16日)

チェンソーの音が響き渡り、何十年も生きてきた園内のクスノキやケヤキ、ヤマモモなどの大木が毎日のように次々と切り倒されています。それを見て、皆さんはそれぞれに思ったり、感じたりされていることでしょう。人の価値観はそれぞれで、どれが良い、どれが悪い、これが正しい、これが誤りというようなものではありません。ただただ、これを現実と受けとめざるを得ません。



お茶の木に白い花が咲いています。普通、お茶と呼んでいる木は、植物学的にはチャノキというツバキ科の木です。建久2年と言いますから、今から1000年近くも昔に栄西というお坊さんが中国からもたらしたとされています。ちょっと前までは、多くの家の庭の隅に植えられていたものですが、最近ではそんなにしてまで自家製のお茶を作るご家庭は、ほとんどないのではないのでしょうか。お茶にして飲むのはもちろん、花も人々に好まれ、趣のあるこの花を活けて楽しむことも広まったとされています。



前号でムラサキシキブを紹介しましたが、これはとてもよく似たヤブムラサキです。実の色は同じですが、一回りほど大きいかわりに、数は少なめです。また、実の周りや、葉などにたくさんの毛が生えているので、ムラサキシキブとの区別は簡単です。特に葉の感触がフワフワしているのですぐに分かります。風土記の丘ではどちらもたくさん生えていますし、隣り合っていることもあるので、比べて見るとその違いがよく分かります。



タンキリマメの赤いさやが弾け、中から黒いお豆が出ました。これは、さやが弾けても中の豆が飛び出ることなく、さやの縁に付いたままなので、赤と黒のコントラストが



とても美しく見えます。小さな写真は、よく似たトキリマメです。風土記の丘ではこの方が多く見られます。これもヤブムラサキ同様、両者を見比べて見ると違いがわかりますよ。



この季節、花がすくないので、続いて実を紹介します。これはヘクソカズラの実です。臭いので屁糞葛と名付けられましたが、この実を潰してもそんな悪臭はしません。何でしたら実際に試してみてください。(匂ったらごめんなさい) 暑い頃はかわいい花を咲かせていたのに、季節が変わると、全く姿を変えます。四季それぞれにその植物独特の姿を見ることができるのも、植物はじめ、自然観察の楽しみです。

松下